

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果について

平成31年4月18日に「平成31年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

1 調査の概要

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領：文部科学省から)

(2) 実施状況

○実施年月日 平成31年4月18日(木)

○実施内容 ①小学校の教科に関する調査(国語・算数)

②中学校の教科に関する調査(国語・数学・英語)

③児童生徒質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等)

○在籍児童・生徒数

小学校6年生 16校 1,365人

中学校3年生 9校 1,009人

(3) 調査結果の見方

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

※ 使用している用語についての説明は次のとおり。

○平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

○平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

○中央値 …… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと。
平均値とともに集団における代表値としてとらえられます。

○標準偏差 …… 集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。

標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値がすべて同じ)ことを意味します。

2 結果全体の概要

(1) 教科に関する調査（平均正答率：単位％）

○全体の傾向

小学校		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
鎌倉市	H31	61		70		—
	H30	69	54	64	53	60
神奈川県 (公立)	H31	61		67		—
	H30	70	54	64	52	60
全 国 (公立)	H31	63.8		66.6		—
	H30	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	理科	英語
鎌倉市	H31	79		65		—	64
	H30	80	66	72	54	70	—
神奈川県 (公立)	H31	73		59		—	59
	H30	76	62	66	48	66	—
全 国 (公立)	H31	72.8		59.8		—	56.0
	H30	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	—

※文部科学省からの公表結果が、平成29年度から全国平均正答率のみ小数第一位までの数値で、県平均正答率、市平均正答率は整数値に変更となった。また、中学校英語の調査結果は、「話すこと」を除いた「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の集計値である。

小学校では、全国・県の公立平均正答率と概ね変わらない結果であった。中学校では、全国・県と比べ公立平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言える。英語の調査も初めて行われたが、他教科同様の結果が出ており、バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が図られていると考えられる。

3 教科別概要と分析、改善に向けて

※記号について（神奈川県教育委員会の分析基準に準拠）

◇・・・・全国平均正答率より5ポイント以上高かった設問

◆・・・・全国平均正答率より5ポイント以上低かった設問

※領域別分析の文末（ ）内に問題番号、市平均正答率

【小学校 国語】

《概要》

全体として、結果は全国平均よりやや下回っており、県平均と概ね変わらない結果である。

問題については、領域の「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、課題が見られる。無解答率が高いことで正答率に影響がでているものが多く、特に後半の問題で無解答率が高く（三三 21.0% 三四 16.1%）、処理能力の面で課題が見られる。

《領域別分析》

話すこと・聞くこと

◇該当なし

◆話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる。（三三）（60.3%）

◎改善に向けての指導のポイントと学習例

○改善に向けての指導のポイント

目的を明確にして情報を関連付けながら聞き、自分の考えをまとめることの充実。

○学習例

目的を明確にもってインタビューを行い、自分の考えをまとめる学習。

相手が話した内容と自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、目的に応じて一番聞きたかったことを中心に自分の考えをまとめていくことができるようにする学習。

書くこと

◇該当なし

◆目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。（一三）（24.4%）

◎改善に向けての指導のポイントと学習例

○改善に向けての指導のポイント

事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることの充実。

○学習例

報告する文章を書く活動をとおして、相手に分かりやすいような文章の構成や、ふさわしい表現について考える学習。

読むこと

◇該当なし

◆目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む。(2二)(83.2%)

◎改善に向けての指導のポイントと学習例

○改善に向けての指導のポイント

目次や索引のそれぞれの特徴を理解して利用するなど本や文章全体から必要な情報を得るための効果的な読み方を身につけ、活用することの充実。

○学習例

調べる学習を積み重ねる中で、目次や索引の有効性を実感できる学習。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

◇該当なし

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。(1四(1)ア)(33.6%)

◆文と文とのつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。(1四(2))(40.9%)

◆ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる。(3四)(67.9%)

◎改善に向けての指導のポイントと学習例

○改善に向けての指導のポイント

日常生活における表現の中で、正しく言語を使うことができるようにする指導の充実。

○学習例

自分が書いた文章を読み返し、相手に伝わるように、語彙や漢字の使い方に気を配ったり、文が長くなり過ぎないように接続詞を使用したりすることの良さに気づく学習。

慣用句やことわざの使い方を正しく理解して、自分の書く文章に取り入れて表現する学習。

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

「書くこと」の学習の充実に向けては、自分の考えをまとめて書く経験をとおして、文章を読みやすくする工夫や言葉を選んで効果的に表現する良さについて実感できる取組が大切である。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、語彙を豊かにし、学んだ語彙と日常生活を関連付けて理解することができること、漢字や慣用句、ことわざの意味や成り立ちについて、実感を伴った理解ができるよう指導することが必要である。

【小学校 算数】

《概要》

学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式における全ての区分の平均正答率において全国平均をやや上回る結果となった。

特に「量と測定」の区分においては、全体的に全国平均を上回る良好な結果となった。また、「図形」や「数量関係」では、正答率が90%を上回る問題もあった。

評価の観点では、「数学的な考え方」が、問題形式では、「記述式」が全体的に全国平均を上回る結果となった。

《領域別分析》

数と計算

◇示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式すること。(4 (2)) (76.3%)

◆該当なし

量と測定

◇示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること。(1 (3)) (51.4%)

◇資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述すること。
(2 (3)) (59.5%)

◆該当なし

図形

◇該当なし

◆該当なし

数量関係

◇資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述すること。
(2 (3)) (59.5%)

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、「数学的な考え方」については、全国に比べ良好な結果である。

今後も各領域の数学的な考え方の指導を工夫・改善し、さらなる向上を図ることが大切となる。

ただし、問題一つひとつの結果を見ると、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること(2 (4))と、棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ること(2 (1))については、全国に比べて正答率が低い結果となったものもあったので、基礎的・基本的な知識とそれらを活用する力を確実に身に付けていくことが必要となる。

【中学校 国語】

《概要》

すべての設問において正答率が全国平均より上回っており、良好な結果である。学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項すべてにおいて概ね良好であるが、「書くこと」については課題が残る。

無解答率がほとんどの設問において全国平均より下回っているものの、記述式の設問については他の設問より高い無解答率となっている。

《領域別分析》

話すこと・聞くこと

- ◇話し合いの話題や方向を捉える。(2一) (86.4%)
- ◇相手に分かりやすく伝わる表現について理解する。(2二) (78.4%)
- ◇話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ。(2三) (69.6%)

◆該当なし

書くこと

◇該当なし

◆該当なし

読むこと

- ◇文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ。(1一) (72.3%)
- ◇文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。(1二) (68.2%)

◆該当なし

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇封筒の書き方を理解して書く。(1四) (63.1%)

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

すべての領域において良好な結果ではあるが、文章や図表等の資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

「書くこと」の指導に当たっては、取り出した情報が自分の伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうか、論の展開にふさわしい語句や文の使い方など読み手に分かりやすく伝わる表現になっているかどうかを検討するとともに、必要に応じて取り出した情報について自分なりの考えを加えるように指導することが大切である。

また、「読むこと」の指導の中で、書き手が根拠としていること、読み手に分かりやすく伝えるための表現の工夫などをとらえさせることで、「書くこと」の指導につなげることも大切である。

【中学校 数学】

《概要》

集計結果として、学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式における全ての分類・区分の平均正答率において全国平均を上回り、また問題別集計結果においても全ての問題において、全国平均を上回る良好な結果となった。

領域別では、「数と式」において、事柄が成り立つ理由を説明することが高い正答率である。また「資料の活用」において、問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断すること、「図形」においては、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし説明すること、さらに「関数」では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが良好な結果となっている。

ただし、「資料の活用」において、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに、正答率が低く無解答率が高くなっていることは課題である。

また、問題が長く、表や図、グラフや式、さらに解答のヒントが提示されるなど、読解力や表現力が問われる設問では、正答率が低くなっており、やや課題である。

昨年度と同様に、全体的に無解答率が低く、問題を粘り強く解いていこうとする姿勢がうかがえる。

《領域別分析》

数と式

- ◇簡単な連立二元一次方程式を解くこと。(2) (78.1%)
- ◇与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えること。(9 (1)) (67.4%)
- ◇事柄が成り立つ理由を説明すること。(9 (2)) (71.1%)
- ◇総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈すること。(9 (3)) (79.1%)
- ◆該当なし

資料の活用

- ◇該当なし
- ◆該当なし

図形

- ◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していること。(7 (1)) (83.1%)
- ◇反例の意味を理解していること。(7 (2)) (83.5%)
- ◇結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること。(7 (3)) (61.3%)
- ◆該当なし

関数

- ◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。(6 (2)) (41.2%)
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、基礎的・基本的な「知識」に関する問題はおおむね定着しているものと思える。さらに、「活用」に関する問題においても、全国・県に比べて高い正答率となっている。

今後も、各領域の基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫・改善が必要となる。また、長い文章の問題により読み取る力が必要となり、さらに文章で答えると言った設問に課題が見られ、言語能力の確実な育成を通し、さらなる数学的に考える資質・能力の育成が大事となる。

全体的に無解答率が低く、問題に取り組む姿勢や、学習意欲が評価できるが、さらに充実した指導が必要となる。

【中学校 英語】

《概要》

全ての設問において、全国と比べ平均正答率が高い。特に、全国で平均正答率の低い設問において、鎌倉市の平均正答率が全国を大幅に上回っており、鎌倉市の生徒は基礎的な英語の力が定着していると考えられる。また、「話すこと」についての調査結果も、参考値ではあるが他の領域と同様の傾向となっている。

領域別では、書くことについて、非常に良好であり、全国と比べて無回答率も大幅に低いことから、書くことに関する抵抗感があまりないと考えられる。

問題形式では、選択式の無解答率はいずれも1%以下である。短答式、記述式の解答率は、いずれも全国の平均より高く、問題に意欲的に取り組む姿勢が見られる。

《領域別分析》

聞くこと

◇教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択することができる。

(1 (2)) (93.7%)

◇外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択することができる。(1 (3)) (83.3%)

◇イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替えることができる。(2) (77.5%)

◇来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書くことができる。

(4) (15.3%)

◆該当なし

話すこと

参考値での調査結果提供のため、市としての分析はできないが、他の領域と同様の傾向となっている。

読むこと

◇書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができる。(8) (18.0%)

◆該当なし

書くこと

◇文の中で適切に接続詞を用いることができる。(9 (1) ①) (89.6%)

◇文の中で適切に接続詞を用いることができる。(9 (1) ②) (76.9%)

◇一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる。(9 (2) ①) (84.3%)

◇一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる。(9 (2) ②) (48.2%)

◇与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。
(9 (3) ①) (65.6%)

◇与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。
(9 (3) ②) (43.0%)

◇与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる。
(9 (3) ③) (51.3%)

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、基礎的・基本的な知識・技能は定着していると考えられる。学習した事項を使って、英語で「話すこと」、英語で「書くこと」によるコミュニケーションへの積極的な態度を育むため、言語材料や活動内容を引き続き工夫していく。特定の言語材料のみだけでなく、コミュニケーションの目的や、場面・状況に応じた必要な言語活動など、個別の知識を活用させて話したり、書いたりすることを授業の中で行っていききたい。

また、全般的に良好な結果ではあるが、英語が苦手な生徒への、わかりやすい授業の工夫を行うことや、実際に活用できることを目指した指導、英語を使うことを楽しめるような活動を工夫し、小中一貫教育の取組と合わせて英語教育の更なる充実を図っていく。

4 児童生徒質問紙の特徴及び課題と改善に向けて

※記号について

◇良好と認められる点 ◆課題のある点

※文末（ ）内は設問番号

【児童質問紙 小学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

○規範意識・自尊感情

- ◆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に、「当てはまる」と答えた児童の割合は79.4%で、全国(85.0%)より低い。(15)

◎学校生活について

○授業全般

- ◆5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTを月1回以上使用した児童の割合は51.9%で、全国(69.0%)より低い。(27)
- ◆授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思う児童の割合は80.4%で、全国(86.5%)より低い。(28)
- ◆学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う児童の割合は68.2%で、全国(74.0%)より低い。(32)
- ◆学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う児童の割合は63.7%で、全国(73.4%)より低い。(33)

○国語

- ◇◆該当なし

○算数

- ◇◆該当なし

○道徳

- ◆道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う児童の割合は74.8%で、全国(80.9%)より低い。(34)

○5年までの学習

- ◇5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う児童の割合は67.7%で、全国(62.5%)より高い。(36)

○解答時間

- ◆国語の回答時間が足りなかった児童の割合は39.6%で、全国（24.3%）よりかなり高い。（57）
- ◆国語の解答時間が余った児童の割合は31.8%で全国（40.2%）より低い。（57）

◎家庭生活について

- ◇朝食を毎日食べている児童の割合は97.1%で、全国（86.7%）よりかなり高い。（1）
- ◇平日、学校の授業時間以外に、2時間以上勉強をしている児童の割合は40.7%で全国（29.3%）よりかなり高い。（18）

◎地域生活について

- ◆今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は58.5%で、全国（68.0%）より低い。（23）
- ◆地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合は49.2%で、全国（54.5%）より低い。（24）

《改善に向けて》

◎個人について

本調査における本市の集計結果から、基本的な生活習慣についてはおおむね良好と考えられる。

しかし、自尊感情、規範意識については若干の課題がみられる。特に、決まりを守ること、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思える児童の割合が全国平均を下回っており、道徳や日常の場面でいじめは絶対に許されることではないという意識や、規範意識の指導を十分に行うことが大切であると考えられる。

◎学校生活について

学習に関する興味関心や授業の理解度では、全国平均との差はほとんどないが、将来社会に出たときに役に立つ学習と考えている児童の割合は、低くなっている。また、解答時間に関しては国語の解答時間が余った児童は全国平均よりも低く、逆に足りなかった児童の割合は全国よりも高くなっている。今後は、各教科の横断的な学習により、発展的な学習内容に取り組む学習活動や、自ら問題を見つけ、総合的に解答を見つけ、自分の考えを記述する力を身につける学習活動が大切であると考えられる。

学習習慣においては、学校の授業時間以外の学習や読書が良好であると考えられるが、図書館等の利用に関しては課題が残る。また、新聞を1週間に1回以上読む児童は、全国平均を上回っている。

◎家庭生活について

朝食喫食率や、家庭学習に費やす時間などが全国よりもかなり高く、家庭環境が安定しており、家庭での教育力が充実している地域であることがわかる。今後も、学校と家庭が連携しながら児童を育てていくことが望まれる。

◎地域生活について

地域・社会への関心では、地域行事への参加が全国の平均よりも低いこともあり、今後、新学習指導要

領の全面実施においては、社会に開かれた教育課程の視点を持ち、地域社会とつながる機会を増やしていくことが大切であると考えられる。

【生徒質問紙 中学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

○規範意識・自尊感情

◇自分には、よいところがあると思う生徒の割合は79.0%で、全国（74.1%）より高い。（5）

◆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に、「当てはまる」と答えた生徒の割合は70.4%で、全国（78.3%）より低い。（15）

◎学校生活について

○部活動

◇学校の部活動への参加の割合は98.6%で、全国（87.5%）より高い。（27）

◇◆学校の部活動に参加する主な理由が、「楽しいから」という生徒の割合は33.8%で、全国（26.3%）より高く、また、「周囲の人が参加しているから」という生徒の割合も13.3%で、全国（7.9%）より高い。（29）

○授業全般

◇1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTを月1回以上使用した割合が72.9%で、全国（63.7%）より高い。（31）

◇総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する学習に取り組んでいると思う生徒の割合は75.3%で、全国（61.5%）よりかなり高い。（34）

◇1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思っている生徒の割合が72.3%で、全国（55.8%）よりかなり高い。（38）

◆先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思っている生徒の割合は77.7%で、全国（84.6%）より低い。（7）

◆学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思っている生徒は60.0%で、全国（65.6%）より低い。（36）

○国語、数学

◇国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしているという生徒の割合は82.9%で、全国（77.4%）より高く、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している生徒の割合も74.0%で、全国（64.4%）より高い。（45）（46）

◇国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どう

- しの関係を考えたりしながら読んでいる生徒の割合は74.2%で、全国(68.4%)より高い。(47)
- ◇今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題を全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合は87.2%で、全国(79.8%)で高い。また、今回の数学の問題について、解答や言葉の数、式を使って説明する問題で最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合は67.8%で、全国(60.8%)より高い。(48)(53)
- ◇数学の勉強が好きである生徒の割合は64.7%で、全国(57.9%)より高く、数学の授業の内容がよく分かるという生徒の割合も79.9%で、全国(73.9%)より高い。(49)(51)
- ◆数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う生徒の割合は70.8%で、全国(76.2%)より低い。(52)

○英語

- ◇英語の勉強が好きである生徒の割合は62.7%で、全国(56.0%)より高く、英語の授業の内容がよく分かるという生徒の割合も71.3%で、全国(66.0%)より高い。(54)(56)
- ◇これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会(地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)が十分にあった生徒の割合は44.4%で、全国(33.8%)よりかなり高い。(58)
- ◇将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う生徒の割合は50.8%で、全国(41.3%)よりかなり高い。(59)
- ◇1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う生徒の割合は90.5%で、全国(77.2%)よりかなり高い。(63)

◎家庭生活について

- ◇朝食を毎日食べている生徒の割合は95.7%で、全国(93.1%)よりやや高い。(1)
- ◇家で、自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合は55.4%で、全国(50.4%)より高い。(17)
- ◇平日、学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上勉強(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)をしている生徒の割合は48.7%、1日当たり10分以上読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)をしている生徒の割合は55.6%で、全国(それぞれ35.5%、50.4%)より高い。(18)(19)
- ◇読書は好きだという生徒の割合は71.8%で、県(63.4%)、全国(68.0%)より高い。(21)

◎地域生活について

- ◇外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う生徒の割合は67.7%で、全国(62.4%)より高い。(25)
- ◆今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合は45.3%で、全国(50.6%)より低い。(23)

《改善に向けて》

◎個人について

自分には良いところがあるという自尊心について、おおむね良好な回答が得られているが、先生に良

いところを認めてもらっているというようにはあまり考えておらず、教師が生徒一人ひとりを認める姿勢を持ちながら様々な教育活動を行っていく必要があると考えられる。また、規範意識については若干の課題がみられる。特に、いじめに関しては、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒は、全国平均を下回っており、道徳やいじめを許さない雰囲気づくりなど日常の場面で、規範意識の醸成を図ることが大切であると考えられる。

◎学校生活について

部活動についての参加率は高く、楽しんで参加していることがうかがえるが、主体的に活動に臨んでいない割合も多く、部活動の目的や意義を理解した上での活動であることが必要であると考えられる。

授業では、コンピュータなどのICTを使用する割合が高いことや、総合的な学習の時間などでは、収集した情報の整理、調べたことのことを発表する学習への取組の割合も高く、自分の考えを工夫して発表することなど、授業力向上に向けた授業改善などが積極的に行われていると考えられる。ただ、授業やテストについて、教員からの丁寧な指導が不足していると考えられる。また、学級活動は、集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成することを目指す必要があると考えられる。

国語、数学及び英語の学習状況は、全国平均より高く、国語、数学では記述式の問題について、最後まで解答を書こうと粘り強く取り組んだ生徒の割合が多いことや、数学、英語は勉強が好きで授業の内容もよく分かるという生徒の割合が多いことは、学習へ向かう姿勢や授業での取組が充実してきていると考えられる。これからも新学習指導要領実施に向けた授業改善に、より一層取り組んでいく必要がある。ただ、数学を学ぶことの意義やよさなどを知り、数学と実社会との関連についての理解を深めていけるようにしなくてはならない。

◎家庭生活について

朝食を毎日食べている生徒の割合が多いことや、学校での出来事を家の人とよく話すことなど、安定した家庭生活を送っている生徒が多いと考えられる。

勉強を計画的に行っていることや読書が好きで、1日の中で読書の時間も適度に費やしていることなど、日常的に落ち着いた生活を送っていることがうかがえる。

◎地域生活について

英語に対する関心が高く出ており、外国の人と友達になることなどに積極的な姿勢が見られることなど、コミュニケーションの大事さや国際理解に係る態度に主体性が見られる。ただ、住んでいる地域の行事への参加は低く、社会に開かれた教育課程の視点を持ち、地域社会とつながる機会を増やしていくことなどが大切であると考えられる。

【資料1】平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査概要(小学校 国語・算数)

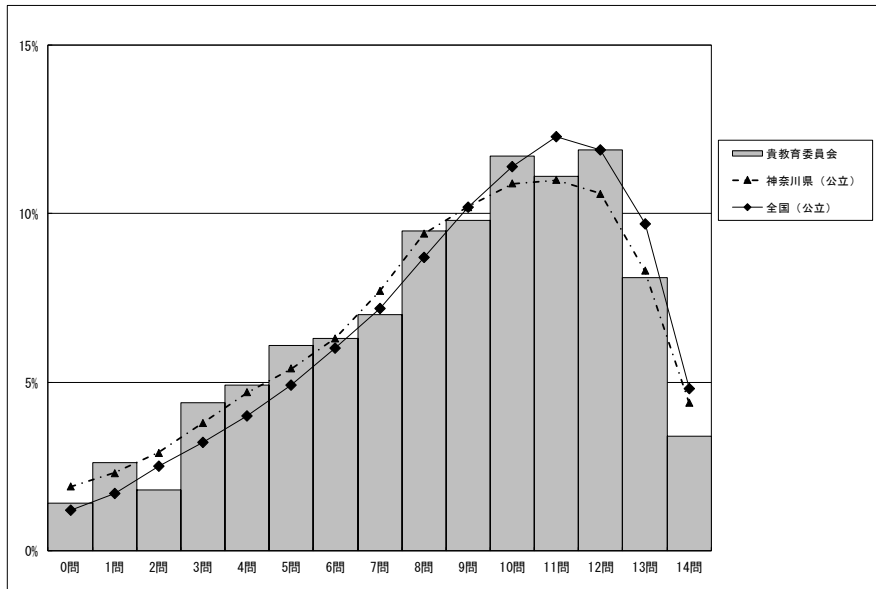
平成31年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
鎌倉市教育委員会－児童

小学校調査

以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,365	8.6 / 14	61	9.0	3.5
神奈川県(公立)	73,380	8.5 / 14	61	9.0	3.5
全国(公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
14問	46	3.4	4.4	4.8
13問	110	8.1	8.3	9.7
12問	163	11.9	10.6	11.9
11問	152	11.1	11.0	12.3
10問	160	11.7	10.9	11.4
9問	134	9.8	10.2	10.2
8問	130	9.5	9.4	8.7
7問	95	7.0	7.7	7.2
6問	86	6.3	6.3	6.0
5問	83	6.1	5.4	4.9
4問	67	4.9	4.7	4.0
3問	60	4.4	3.8	3.2
2問	24	1.8	2.9	2.5
1問	36	2.6	2.3	1.7
0問	19	1.4	1.9	1.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	12.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	10.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問	7.0問

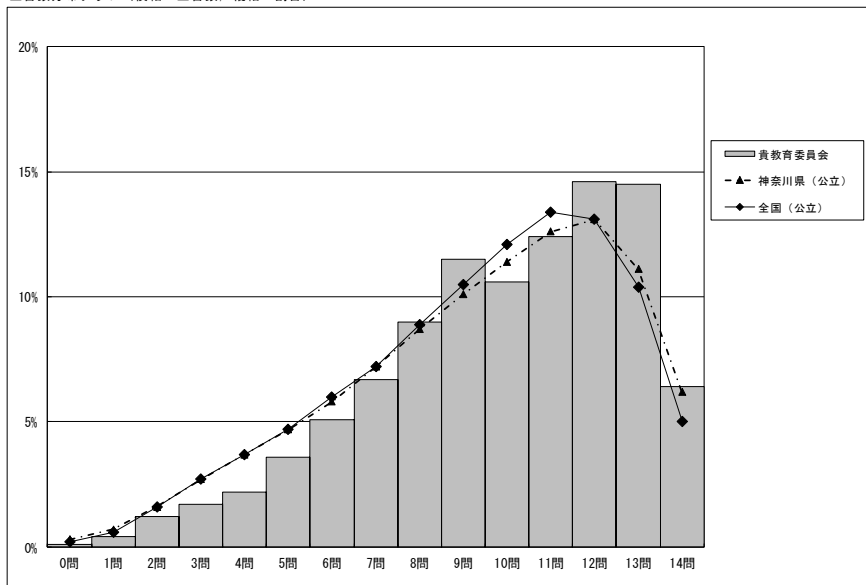
平成31年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [算数]
鎌倉市教育委員会－児童

小学校調査

以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,365	9.8 / 14	70	10.0	2.9
神奈川県(公立)	73,380	9.4 / 14	67	10.0	3.2
全国(公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
14問	87	6.4	6.2	5.0
13問	198	14.5	11.1	10.4
12問	199	14.6	13.1	13.1
11問	169	12.4	12.6	13.4
10問	145	10.6	11.4	12.1
9問	157	11.5	10.1	10.5
8問	123	9.0	8.7	8.9
7問	92	6.7	7.2	7.2
6問	70	5.1	5.8	6.0
5問	49	3.6	4.7	4.7
4問	30	2.2	3.7	3.7
3問	23	1.7	2.7	2.7
2問	16	1.2	1.6	1.6
1問	5	0.4	0.7	0.6
0問	2	0.1	0.3	0.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問	7.0問

【資料2】平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査概要

(中学校 国語・数学・英語)

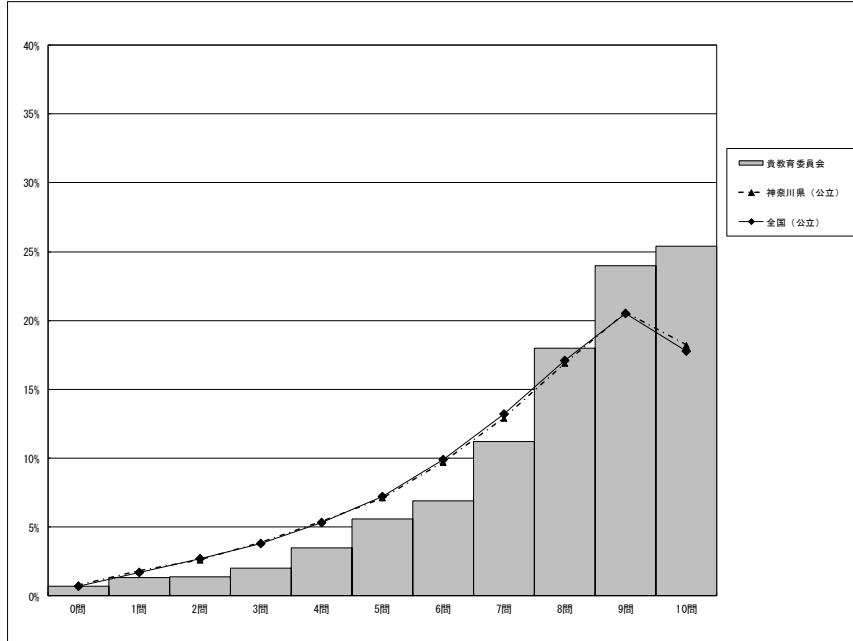
平成31年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
鎌倉市教育委員会一生徒

中学校調査

以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,009	7.9 / 10	79	8.0	2.2
神奈川県(公立)	62,343	7.3 / 10	73	8.0	2.4
全国(公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合 (%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
10問	256	25.4	18.2	17.8
9問	242	24.0	20.6	20.5
8問	182	18.0	16.9	17.1
7問	113	11.2	12.9	13.2
6問	70	6.9	9.7	9.9
5問	57	5.6	7.1	7.2
4問	35	3.5	5.4	5.3
3問	20	2.0	3.9	3.8
2問	14	1.4	2.6	2.7
1問	13	1.3	1.8	1.7
0問	7	0.7	0.8	0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	10.0問	9.0問	9.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	7.0問	6.0問	6.0問

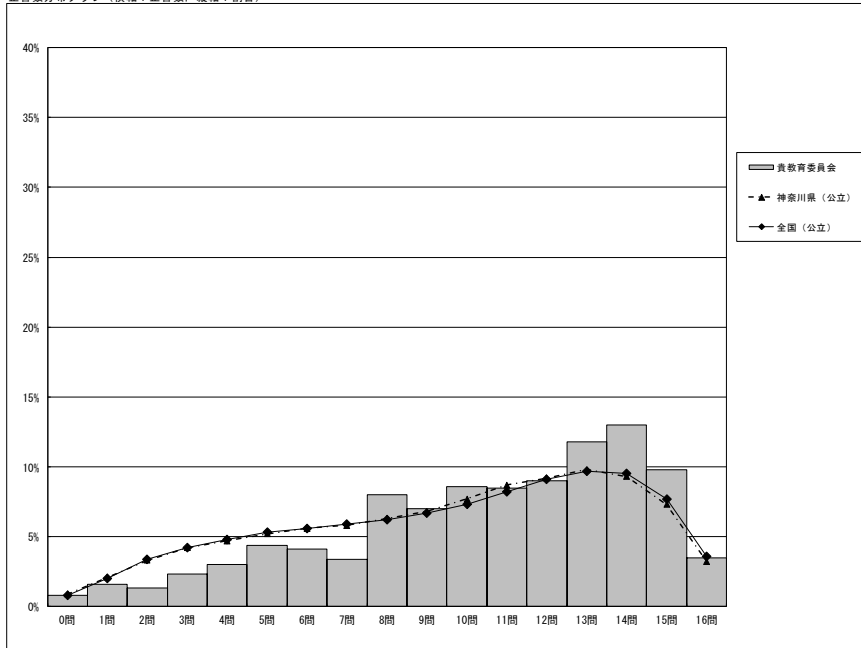
平成31年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学]
鎌倉市教育委員会一生徒

中学校調査

以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,009	10.5 / 16	65	11.0	3.8
神奈川県(公立)	62,366	9.5 / 16	59	10.0	4.1
全国(公立)	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2

正答数分布グラフ(横軸:正答数,縦軸:割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合 (%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
16問	35	3.5	3.2	3.6
15問	99	9.8	7.3	7.7
14問	131	13.0	9.3	9.5
13問	119	11.8	9.8	9.7
12問	91	9.0	9.2	9.1
11問	86	8.5	8.7	8.2
10問	87	8.6	7.7	7.3
9問	71	7.0	6.8	6.7
8問	81	8.0	6.3	6.2
7問	34	3.4	5.8	5.9
6問	41	4.1	5.6	5.6
5問	44	4.4	5.2	5.3
4問	30	3.0	4.7	4.8
3問	23	2.3	4.2	4.2
2問	13	1.3	3.3	3.4
1問	16	1.6	2.1	2.0
0問	8	0.8	0.9	0.8

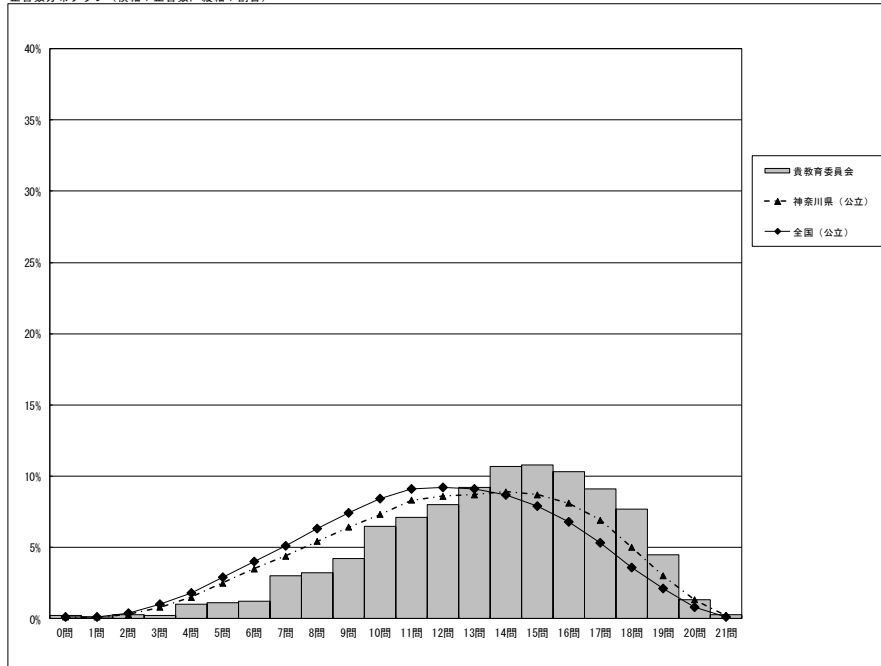
※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	14.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	6.0問	6.0問

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,009	13.5 / 21	64	14.0	3.7
神奈川県 (公立)	62,371	12.3 / 21	59	13.0	4.0
全国 (公立)	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数	割合 (%)		
	貴教育委員会	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
21問	3	0.3	0.2	0.1
20問	13	1.3	1.3	0.8
19問	45	4.5	3.0	2.1
18問	78	7.7	5.0	3.6
17問	92	9.1	6.9	5.3
△ 16問	104	10.3	8.1	6.8
15問	109	10.8	8.7	7.9
◇ 14問	108	10.7	8.9	8.7
13問	93	9.2	8.7	9.1
12問	81	8.0	8.6	9.2
▽ 11問	72	7.1	8.3	9.1
10問	66	6.5	7.3	8.4
9問	42	4.2	6.4	7.4
8問	32	3.2	5.4	6.3
7問	30	3.0	4.4	5.1
6問	12	1.2	3.5	4.0
5問	11	1.1	2.5	2.9
4問	10	1.0	1.5	1.8
3問	2	0.2	0.8	1.0
2問	3	0.3	0.3	0.4
1問	1	0.1	0.1	0.1
0問	2	0.2	0.1	0.1

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	16.0問	15.0問	15.0問
◇ 第2四分位	14.0問	13.0問	12.0問
▽ 第1四分位	11.0問	9.0問	9.0問